

令和8年度(2026年度)農林水産常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和8年(2026年)7月28日(火)
- 2 視察者 農林水産常任委員会(7名)
荒川知章(委員長)、城戸 淳(副委員長)、吉永和世、
緒方勇二、竹崎和虎、幸村香代子、住永栄一郎

3 視察の概要

(1) 熊本県立芦北高等学校

熊本県立芦北高等学校は、平成15年に魚つき林(海に関わりを持つ森林)の造成に取り組んでいた際、芦北町漁協から海のゆりかごであるアマモ場を復活させて欲しいとの依頼があり、活動を開始する。先輩から後輩に引き継ぎながら、様々なアマモ場造成研究を実施している。

令和2年7月豪雨の被害を受けたものの、逆境を糧にして、ヘドロを活用したアマモ苗栽培方法を考案、確立している。

今回の視察では、同校が行っているアマモ場造成研究及び現状について説明を受けた。

同校から、これまで24年間で実践した活動、研究してきたことのほか、平成23年に考案した「ロープ式下種更新法」というアマモの花枝(種が入っている穂)を集めてロープで沈める種子散布法で飛躍的にアマモ場の面積拡大したことや熊本県では初となるJブルークレジットを取得したことなどの説明があった。また、同校は、第19回海洋立国推進功労者内閣総理大臣賞を受賞されている。



(2) 芦北地方農業振興協議会

芦北地方農業振興協議会は、県、水俣・芦北地域の市町、農業委員会、JAで構成され、農業振興に取り組んでいる。

芦北地方は全国有数の不知火(デコポン)、甘夏産地であるが、近年の農業者の高齢化や減少に対して、平成30年に「新たな担い手確保プロジェクトチーム」を設立し、新たに農業を始め



る方への相談対応、技術習得、園地の斡旋など就農定着に向けてトータルでサポートしている。

特に、果樹のリリーフ園制度を確立し、就農１年目から収益を得る体制を整備したことで、担い手確保の成果を上げている。

今回の視察では、同協議会の新規就農者確保・育成の体制と地域農業活性化への取組について説明を受け、新規就農者の園地を見学した。

同協議会から、高齢化に伴い後継者がいない、耕作の中止を考えている出し手、園地を貸したい人を把握し、その方の果樹園地をＪＡあしきたが一時的に借り受け管理し、新規就農者へ継承する仕組みを構築するリリーフ園制度などの説明があった。また、実際に園制度で支援した新規就農者の園地を見学し、新規就農者からは、ＪＡ専門員の支援もあり、新規就農にあたっての手厚い支援があるので、芦北で農業をしようと決意したなどのお話を伺った。



(3) 新栄合板工業株式会社

新栄合板工業株式会社は、国内屈指の合板メーカーで水俣市に１９７５年創業、現在、主力の水俣工場に加え、令和元年稼働の大分工場の２工場を保有し、本社は東京にある。

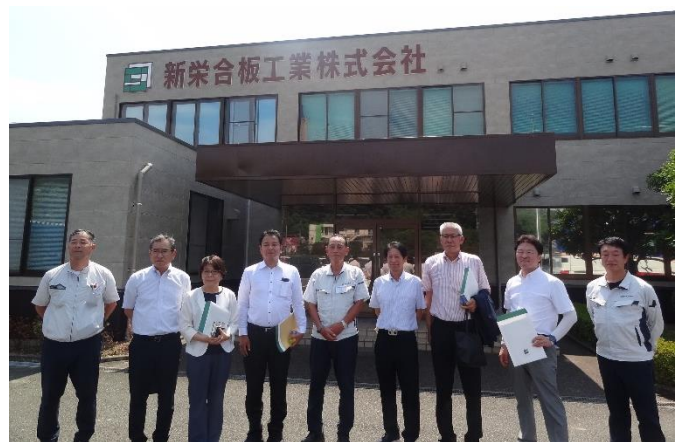
地域や顧客のニーズに即した製品開発や用途開発に取り組み、構造用合板、型枠用合板の他、LVL（単層積層材）など多様な商品を製造している。

創業当初は輸入原木を使用していたが、平成１３年頃からスギを使用した製品開発に取り組み、現在、水俣工場の年間原木消費量約２０万 m^3 は全て国産材で、主に熊本県、宮崎県、鹿児島県産のスギ、ヒノキを使用している。

また、曲がり等、柱や板の製材に不向きで十分に活用できていなかった丸太も使用していることから、地域の森林資源の有効活用に繋がっている。

今回の視察では、同社が行っている木材資源の有効活用の取組について説明を受け、工場内を見学した。

同社から、合板とは、丸太をカツラ剥ぎして薄いベニヤを重ね合わせ接



着して作られたものであることやヒノキ、スギ、シタンの補植を行う山を育てる取組についてなどの説明があった。説明後、合板が作られている工場を見学した。



(4) ジビエ解体処理施設「ジビエのさと」

ジビエ解体処理施設「ジビエのさと」は、球磨村ではこれまでも旧施設において有害鳥獣捕獲したシカ等のジビエ利用を行っていたが、年間600頭程度の受入れが限界であり、受入れ頭数の増加が望まれていた。そこで、令和7年度「鳥獣被害防止総合対策事業」の国の交付金を活用し、年間約1,300頭の受入れが可能な県内最大級の公営公設のジビエ処理加工施設を建設した。令和8年4月から稼働しており、6月10日に開所式が開かれた。

小型の焼却炉を併設し残渣処理コスト低減を図るほか、捕獲者の負担軽減や需要が増えているジビエ肉の利活用促進を行うことで、捕獲意欲の向上及び村の特産品としての需要拡大を目指している。

今回の視察では、同施設の取組について説明を受け、施設を見学した。

同村から、1日に4、5頭を処理していることや焼却炉では灰になるまで焼却することで捕獲者の負担を軽減していること、ジビエ肉の購入は、希望者へ施設内でのみ販売しているが、将来的には道の駅でも販売していきたいなどの説明があった。説明後、視察内の見学を行った。

